

重症の膠原病(自己免疫疾患)に対する治療法(CAR-T療法)

御利用者様および御家族様には、日頃大変お世話になっております。

この原稿は3月に書いています。今回も前回同様 ニューイングランド ジャーナル オブ メディシンという世界で一番有名な医学雑誌からの話題です。CAR-T というのは、元々、白血病など血液悪性疾患(血液の癌)に対する新しい治療です。骨髄移植より新しい治療で、勿論、小生など素人には手が出せるようなものではありません。最近では血液だけでなく、普通の癌(固形癌)の治療にも使われています。抗癌剤と違って、「免疫療法」(免疫の力で癌の治療をする)と呼ばれています。この新しい治療を、癌以外の御病気、膠原病(自己免疫疾患)に施行したという話題です。

まず、小生の思い出を二つ。一つは、小生が研修医になった時、2年先輩から、「ニューイングランド ジャーナルに乗った(掲載された)瞬間から、その論文の内容は内科医の常識と考えろ」と鼓舞されました。大変優秀で勉強家の先輩でしたから、そのような素晴らしいことをおっしゃったのですが、小生のような怠け者は、それから45年近くたった現在も全く実行できていません。40年以上御無沙汰しておりますが、今でもその先輩を尊敬しています。もう一つ。学生のころ御世話になった教授に毎年賀状を送っていたのですが、20年ほど前にその教授から喪中はがきが届きました。御嬢様が御逝去なされたとのことでした。喪中はがきには、享年も病名も明記されていました。基礎医学の教授で、臨床はなさらなかったのですが、流石、医師だと感服しました。一人っきりの御嬢様を亡くされ、悲しみに暮れていらっしゃるでしょうに、しっかり病名をお書きになっていらっしゃることに感銘を受けました。御病気が、本日話題の膠原病(自己免疫疾患)だったのです。

さて、本題に戻ります。重症の全身性エリテマトーデス(8例)、特発性炎症性筋炎(3例)、全身性強皮症(4例)の計15例にCAR-T治療を行ったという論文です。本来、このような「症例報告」を載せる雑誌ではなく、最先端の研究を載せる雑誌です。それだけ画期的な内容だという事です。大変重症なので、通常の治療を継続してもお亡くなりになるような15例だったのですが、治療後2年間の経過は全例で良好、ほぼ寛解(改善)なさっています。しかも、免疫療法は全例で完全に中止されています。通常、膠原病(自己免疫疾患)は、一生、ステロイドなどの免疫治療を継続しなくてはなりませんが、「免疫治療を中止できた」というのは素晴らしいことです。驚くべきことです。副作用も、お命に関わるような重症の膠原病の方でしたら、許容される範囲でした。

今回は、紙面の都合と、治療内容が複雑で難しいため CAR-T 治療の内容については解説が出来ません。図の通りです。思い出話の方が長くて紙面を取ってしまい、申し訳ございません。

今後とも 老健施設はみんぐ を宜しく願い申し上げます。

2024年3月20日 かめたに ひろし

CAR-T細胞療法の仕組み

